



研修紹介

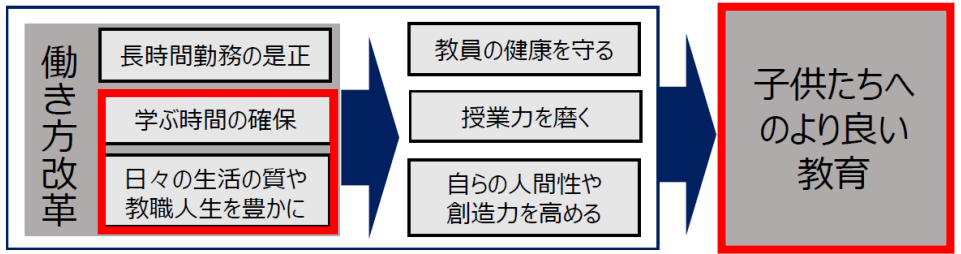
「先生が忙しすぎる」をあきらめないⅡ より (NITS独立行政法人教職員支援機構 校内研修シリーズNo. 144)

NITS校内研修シリーズに働き方改革関連の研修動画がアップされました。社会的な課題となっている学校における働き方改革について、「Why **なぜ**忙しい日々を変える必要があるのか」「What **なに**をしていけばよいか」「How **どう**進めるか」といった3つの視点に基づいて解説されています。

なぜ忙しい日々を変える必要があるのか

※R5.12月教育長メッセージより

- 「子供たちのためであればどんな長時間勤務も良しとするという働き方は、教師が疲弊していくのであれば、それは「子供のため」にはなりません。
- 教員のウェルビーイング(※1)がより良い教育に、ひいては教職の魅力向上や優れた人材の確保につながります。



※1 「ウェルビーイング」とは、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを含めた概念です。

校長・教頭からよく聞くお悩み

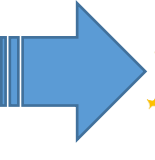
部活については、すごく生きがいになっている先生もいて、熱心に指導してくださっているんです。その人のモチベーションを下げないようにしないとイケないですし、練習量を減らしましょうとか、一部の休部などは、言い出しづらくて…。



**だれの、何を
守ろうと
しているのですか？**



こんな子供いませんか？
最近、教室では疲れ切った様子が見られます。勉強にも集中できていないようで心配。部活動では非常に熱心なのですが、…



**子供も教員も
生き生き輝く
学校でありたい**

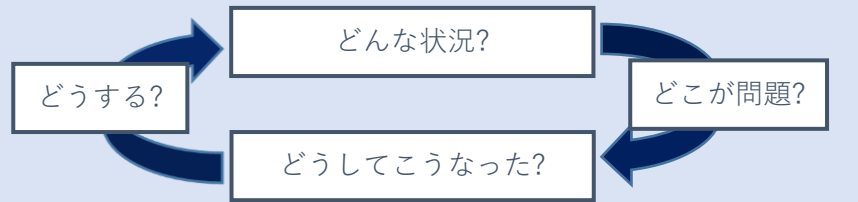


なぜ、もっと練習したいという生徒（+教員）がいるのに、休養日を設けるの？

1. スポーツへの参加時間が長ければ長いほど、**けがをする確率が高くなる**ことが、実証されている。
週16時間以上の場合、ないし“年齢×1時間”より多い場合は、けがの発生率が高いとの研究が複数ある（スポーツ庁の検討会議、2017年12月18日での報告）。**体育の時間等も含む。** **子供たちの健康が第一！**
 2. ハードな練習では、**参加しづらい生徒や途中でやめる生徒も**いるし、中高やりすぎて、その後はやめてしまう子も多い。**部活動のやりすぎは、生涯学習に逆行。**
 3. 「長くやればやるほどうまくなる」という考えは教職員にも、生徒にも、保護者にも強いが、それは**スポーツ科学の知見からは否定**されている。
 4. 子どもの学習時間や友達・家族との時間、**自由な時間などをもっと認め**ていく必要がある。 **子供たちも忙しすぎる！宿題の出しすぎもそう**
 5. 教職員の**負担**の問題。教職員にとっても、部活動以外の時間、たとえば、家族との時間、ぼーっとする時間、自己研鑽する時間などは大切。
- ※ 2.4.5.などは文化部活動についても言える。

出典：NITS 独立行政法人教職員支援機構
校内研修シリーズNo. 144 オンライン研修教材

生き生きやりたいからこそ、ストップをかける！



NITSサイトはこちら↑
「先生が忙しすぎる」をあきらめないⅡ
校内研修シリーズ No. 144

年度末
だからこそ
総括を

- 学校目標は実現できたか？
- 教員全体が、同じ景色を目指していたか？
- データ(出退勤ログ等)を活用し、「見える化」
- 次年度の方向性や取組を協議しよう！